

校長会報

第 133 号

発行所
宇都宮市立昭和小学校
栃木県小学校長会事務局
発行責任者
大豆生田 将
印刷所
株式会社宮本印刷

さらに組織的な取組に

栃木県小学校長会長 大豆生田 将



いスピードで答申が行われているところですよ。

また、英語教育を含む次期学習指導要領の改訂に向けての検討も、第八期中教審において急ピッチで進められています。

今年度の会長を引き受けることになりました。もとより微力ではありますが、会員の校長先生方の温かなご支援と力強いご協力をいただきながら全力を尽くして参りますので、よろしくお願いいたします。

さて、ご承知のように国においては教育再生実行会議の七次にわたる様々な提言を受け、中教審においてもものすこ

状況が浮き彫りになっております。学校の適正規模・適正配置に向けた検討が今後、どのような形で進められるのか注視したいところです。

このような社会の急激な変化の中で、不易と思われたことさえも変わりうる時代、我々校長は様々な変化に対して常に神経を研ぎ澄まし、先見性のある経営ビジョンと具体性をもった取組を行っていかなくてはなりません。

今年度の取組の一つとして、中学校長会や教育関係団体・機関等との連携・協力をこれまで以上に積極的に行ってきたいと考えています。例えば現状改善のため、お互いの組織の持つ基礎データを集積・共有し、それを基に何が問題なのかを積極的に発信していきたいと思えます。いろいろな調査の結果を読み取るだけ

でなく、データをどのように活用していくかが重要です。

二つ目として、現在県内には十二の地区校長会組織がありますが、それぞれの地区の現状や課題等をお互いに理解し合いながら、校長会としての組織的な取組を強化していきたいと考えています。そのために、本年度はホームページを有効に活用して各地区や市町内での情報交換ができるような活用度の高いものにしていくと思っています。活発な情報交換をする中で、判断材料が増え、選択の幅が広がり、より充実した学校経営が行えるようになると思えます。

校長は経営者、人材の育成者、教育者、そして最高責任者であると言われます。小学校長会三七七校のそれぞれの学校と地域の実情はほんとうに様々ではありますが、学校が社会からの期待に応え、未来を担う子どもたちをよりよく育てていくために、それぞれの学校の状況もお互いに理解し合いながら、校長会としての組織的な取組とともに進めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

第六十八回

栃木県小学校校長会総会

平成二十七年栃木県小学校長会が、五月十四日に県教育会館で、県教委教育長の古澤利通様をはじめ多くのご来賓をお招きして開催されました。

大豆生田将会長は挨拶の中で、「様々な変化に対して常に神経を研ぎ澄まし、先見性のある経営ビジョンと具体性を持った取組を行っていかなくてはならない。そのためにも、中学校長会等と連携・協力を進め、校長同士情報を共有しながら、意見交換を積極的に行い、協力して取り組んでいきたい。」と述べられました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。

研修会では、宇都宮大学教育学部教職大学院教授の渡辺浩行先生から「小学校から変わる(英語)教育リダーに期待すること」と題して講演があり、多くの示唆に富んだお話を聞くことができました。

平成二十七年 活動目標

本校長会は、新たな時代の要請に応える教育の実現を目指し、次の基本目標を掲げ、知・徳・体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を一層推進する。

今後、積極的に情報を収集し、ネットワークを駆使して学校改善のための研修に努め、学校経営及び日常の教育活動を通して積極的に研究・実践を積み重ねていく。

《基本目標》

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覽

んでいける校長会を目指します。

宇都宮・上三川 高山 裕一

宇都宮市立西原小学校

六十九校の小学校長それぞれ、力のよさを生かして、力を合わせ問題に立ち向かったり、悩みを聞いてもらったりできる、あたたかい校長会を目指します。

上野 一成

日光市立大沢小学校

五十三名の会員の皆様、研修を深め、交流を通して、相互の連携を密にし、学校経営力の向上に努めます。

大塚 武夫

真岡市立真岡小学校

会員相互の情報交換に努めながら、今日的教育課題の解決に向け、積極的に取り組む校長会にします。

下都賀 諸澤 典昭

野木町立佐川野小学校

壬生町と野木町の十三校が連携を図り、互いの力量を高め合いながら、課題解決に向けて積極的に取り組

下野 上野 一成

下野市立細谷小学校

市内十二校と小さな集団ではありませんが、会員相互の情報交換を密にし、市全体の教育力を高める校長会を目指します。

小山 長谷川 一

小山市立大谷北小学校

各校の実態は異なりますが危機感をもって将来を担う教職員の育成のため、何をしなければならぬのか実践的な研究に取り組んでいきたいと思っています。

栃木 星野 正隆

栃木市立大宮北小学校

人生の礎・生きる力をはぐくむ学校経営を研修テーマとして、各地域のよさを生かしながら、互いの力量を高め合える校長会を目指します。

塩谷 南部 正人

さくら市立上松山小学校

研究主題を「生きる力を

はぐくみ 子どもの明日を拓く「学校経営の推進」とし、年二回の全体研修会や地区研究記録冊子の充実に努めます。

那須 高梨 友子

大田原市立川西小学校

各市町校長会の特色を生かしながら、会員相互の情報交換や全体研修の充実に努め、様々な教育課題に前向きに取り組む校長会を目指します。

南那須 小林 暢子

那須烏山市立江川小学校

一市一町九名の会員が、全体研修や研究大会を通して、互いの連携を深め、今日的教育課題の解決に積極的に取り組む校長会を目指します。

佐野 藤川 悟

佐野市立城北小学校

校長自ら研修に意欲的に取り組むとともに、会員相互の連携を図り、当面する様々な課題の解決に向けて積極的に取り組む校長会を目指していききたい。

足利 小池 正勝

足利市立山前小学校

信頼される学校づくりの推進と校長自身の経営力の向上に向けて、連携と研修の充実に努め、教育諸課題に組織として取り組む校長会を目指します。

平成二十七年 役員一覽

- 会長 大豆生田将(宇・昭和)
- 副会長 高山 裕一(宇・西原)
- 副会長 小池 正勝(足利山前)
- 副会長 大関 馨(芳・真岡)
- 副会長 川原 良明(南那七倉)
- 書記 大塚千枝子(宇・陽光)
- 書記 小島 治代(宇・西)
- 書記 石川 治夫(小羽川西)
- 書記 石島 昌子(宇・緑が丘)
- 会計 高橋 正彦(宇・桜)
- 会計 平野 見一(塩阿久津)
- 会計監査

- 軽部 芳明(下野園分等)
- 中野 哲雄(栃・赤津)
- 高橋 好子(上落宮西)



専門部 活動方針

総務部

部長 塚原 和哉
宇・今泉小学校

一 主題

栃木県小学校長会活動
方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

本会の事業推進及び連絡調整、並びに教育懇談会等による対策活動の推進、各部会に属さない必要事項の処理を行う。

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案事項作成と提出

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会参加予定（本県の実情等の発表）

研修部

部長 矢田部芳仁
宇・陽南小学校

一 主題

新しい知を活かし豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と栃木県小学校長会の基本目標に基づき、次の活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・第六十七回全連小山口大会への参加

・第六十七回関ブ新潟大会の分散会での提案

(宇都宮・上三川地区)
(芳賀地区)

・第五十八回中央研究大会の実施(研究発表と外部講師による講演)

(三) 研修記録「第五十五号」の編集・発行

調査部

部長 富田 恒男
宇・錦小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査・研究と資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の状況を調査・研究し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) 土曜授業について

(二年次)

(二) 小中連携の取組について
(初年度)

※この二点について、七月下旬から八月上旬に調査のためのアンケートをメールで送付いたします。期限までに各地区調査部長へ回答くださいますようお願いいたします。

調査の結果は、報告書にまとめて配布いたしますので、各校の教育活動改善の資料としてご活用ください。

厚生部

部長 上澤 久子
宇・戸祭小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

会員の福利厚生に関する各種事業を推進する。

学校生活協同組合との連携により、会員の福利厚生の充実を図る。教育関係諸団体と合同で県教育委員会に対し、会員の福利厚生事業の充実のための要望を行う。

県小・中学校長会慶弔規程に基づき、会員の慶弔に関する事業の執行並びに会務担当として会計の任にあたる。

※平成二十七年度は、中学校長会の慶弔会会計が担当する。

会員のための福利厚生に関する各種事業が効率的に実施されるよう努め実質的な効果が上がるよう努力する。

広報部

部長 関山 英二
宇・平石中央小学校

一 主題

県小学校長会の活動目標の具現化に関わる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日の課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組む際の情報を提供する。

(一) 校長会報の年二回発行(七月・二月)

・特色ある学校づくり

・豊かな心を育てる学校経営

・県校長会研修の取組

・県教育委員会からの情報

報

・全連小の動向・情報

・心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力
(機関誌「小学校時報」など)

(三) 県校長会のホームページの運営・管理



〔主張〕 目的を見失わない

栃木県小学校長会副会長 高山 裕一



一度始めたならやめることのない数々の教育制度。

「目的は読んでおいてください。」という言葉から始まる職員会議。

矢継ぎ早に教育再生実行会議より提言が出されます。それをまともに受けトップダウン的な中央教育審議会の審議が行われています。何か別世界で行われている感がありますが、数年後には、そのままの教育改革が私たちに降りかかってきます。学校で今、目の前にしているこの子たちが学び、成長していくための本場に必要教育は、どこに存在しているのでしょうか。社会の変化が激しいのは現状ですが、百年単位で成長するほど、ヒトの進化は早くありません。

一方、学校現場と言えば、

授業を変えることが学力向上の方策と勘違いし、目新しい方法を取り入れることに力を入れる校内研修。油断するとそんな毎日に飲み込まれそうです。学校経営とは、児童・職員・家庭・地域が「生きる力」を育てると同じ山の頂を目指して歩いて行くために、職員一人一人がそれぞれの特質を生かしながら力を合わせていくことだと考えます。そのために校長は、職員を引っ張り上げることも、そつと背中を押すこともあるでしょう。しかし大切なのは、山の頂（つまり教育の目的）はどこにあるのかを絶えず分かりやすく示し

続けることだと思っています。

国の教育改革も学校の行事も、山の大きさはちがっても、学習指導要領の理念「生きる力」の育成につながることでなくてはならないし、そのために常に改善

〔主張〕 「地域連携」に思うこと

栃木県小学校長会副会長 小池 正勝



が必要です。

自分自身が学校現場に慣れきってしまうことなく、常に目的に立ち戻り、そこを通して自分の学校経営をメタ認知していきたいと思っています。

かつて、私は、社会教育主事でした。学校教育と社会教育の連携である「学社連携」、地域との協働による「学社融合」、「学校支援ボランティア」、そして「ふれあい学習」と地域連携に関わってきました。

学校の教育活動に地域の人たちが関わることにより、子どもたちの体験や学びが

拡がり豊かになっていく様子、また、子どもたちとふれあうことで地域の人たちの「共に子どもたちを育てていこう」という関心が高まり、それが地域の教育力として顕現化されていく様子を目の当たりにし、学校にとっても地域にとっても「連携する」ことの大切さを実感したものです。

また、地域との連携が県内各地で推進され、地域と学校の関係がより密接になってきた状況を見るに、やはり校長のリーダーシップと「地域連携に対する思いや展望」が重要であることも

感じました。私自身も学校へ戻り、「地域とふれあい、地域に学ぶ」というテーマのもと、人と人とのつながりを大切にした地域連携（共育）に取り組み、その実践は、今でも財産となっています。

さて、現在の勤務校の実情や校長会の情報交換などから、最近の学校が抱える問題を見ると、子ども自身の問題もさることながら、子どもたちを取り巻く生活環境、家庭や保護者に関する問題等が増えてきています。子どもだけを指導・支援しても改善していくことが難しくなってきました。このような状況の解消に向け、校長として地域とどう関わり連携していくかが、今後ますます重要になると思います。

学校の教育課題や当面する問題を踏まえ、校長として「地域連携」の方針、在り方を再確認し、「一人一人の子どもが生きる」学校経営に努めていくことが大切であると考えています。

豊かな心をもち 輝いて生きる 子どもの育成を目指す学校経営

『小さな親切』運動の継承と発展

くあいさつ・返事・靴揃え・黙働(黙って清掃・読書)

足利市立梁田小学校

萩原 和巳



「梁田の木」の前で
実行章受賞者集合写真

本校は渡良瀬川を境に足利市の南東部に位置する児童数二二四名の学校です。木のぬくもりを感じる新校舎や広い校庭など教育環境に恵まれています。

本校では、「未来をめざすたくましさ」を教育指標に、「自ら学び、自ら考え、心豊かに生きる子の育成」に努めています。特に、思いやりの心をもち、心豊かな人間関係を築ける子どもたちの育成を目指して次のような教育活動に取り組んでいます。

一 「小さな親切」運動の継承とさらなる発展

本校は昭和四十一年度に「小さな親切」運動に団体加入し、子どもたちに思いやりの心をもたせようと「小さな親切」

運動を積極的に推進してきました。実行した子どもは全児童の前で表彰され、実行章の授与とともに「梁田の木」に児童名を書いた「親切の実」を一年間掲示されます。四十九年間「小さな親切」運動に取り組み、運動本部から全国表彰を受けたこともあります。現在、長い歴史と伝統の重みを継承しつつ、「小さな親切」運動を発展させ「あいさつ・返事・靴揃え・黙働(黙って清掃)・読書」を目標に子どもたちの豊かな心の育成を目指した活動を進めています。

二 クリーン梁田

年一回梁田地区の清掃活動を行い、地域をきれいにしようとする心と郷土愛を

培っています。拾ったゴミは地域の協力を得て分別して片付けています。

三 学習指導法研究指定校

市教育委員会より「学習指導」研究指定校を受け、「主体的に学習に取り組む態度」をやる気として考え、「や

『ともに学び合う学校づくり』を目指して

く豊かな心を持ち『子ども力』を育てる学校経営

栃木市立大平南小学校

鈴木 廣志



親父の会の皆さんも
読み聞かせに参加

る気アップ」を目指した研究を進めています。豊かな心と温かな人間関係を学校生活の基盤に据え、家庭学習、特に「予習」に力を入れ、子どもたちのやる気のアップを図り、学力向上に繋がっています。

栃木市の南部に位置する児童数三四八名の中規模校です。現在、新校舎を建設中で、仮設校舎で学校生活を送っています。学校の歴史を紐解くと「志を高くもち、努力を惜しまず、ともに高めあう」校風を感じます。例えば優れた農業指導者や金属工学の先駆者、オリンピック選手など多くの人材を輩出しています。そんな本校の学校経営の方針として「ともに学び合う学校づくり」を掲げ取組む本校ならではの活動を紹介します。

一 ふるさと学習

栃木市で進める「とちぎ未来アシストネット」を活用し、多くのボランティアとともにふるさと学習を展開しています。特に、六年生の総合では、本校の卒業生でありビール麦の普及に努めた郷土の偉人「田村律之助」についてボランティアの方とともに学び合い、語りやオリジナルの紙芝居を完成させ、図書館や公民館で発表し、広く発信しています。

二 サマーチャレンジ

夏休みの二日間クラブ活動の一環として、地域の方を講師にクラブ活動を実施

しています。例えば、地域のパティシエによるクッキングクラブ、釣り名人の指導のアウトドアクラブ、公民館講師による土器づくりなどです。地域の方々との交流を通して、豊かな人間関係が育っています。

三 親父の読み聞かせ

本校には十一年目を迎える読み聞かせの会「ピッコロクラブ」があります。(本校の卒業生で声優の古川登志夫さんの代表作『ドラゴンボール』にちなみ命名)今年度は、親父の会のメンバーも加わり、親父の読み聞かせもスタートしました。子どもたちからは「お父さんたちが読み聞かせをしてくれた」と大好評です。

こうした方々とのふれあいや学び合いを通して、子どもたちのきらりと光る感性や可能性としての『子ども力』が育っていることを実感します。来年一月の新校舎の完成を楽しみに「チームみなみ」を合言葉に「ともに学び合う学校づくり」に努めています。

特色ある学校づくり

『地域の連携による 地域に支えられた学校づくり』

壬生町立藤井小学校 坂本 信子

本校は鳥居氏の城下町壬生町の南部に位置し、南北に流れる黒川を近くに臨んだ自然環境に恵まれた学校です。児童数は四十二名の小規模校ですが、地域は豊かな自然環境の中で育まれた地域性から、温厚で勤労意欲が旺盛であり、連帯意識が極めて強く、学校に非常に協力的です。

そこで、本校では郷土愛や愛校心を育てるために、「人」を生かし、地域と連携した活動を積極的に行っています。これまで田植えやかんぴようむき体験、しいたけ栽培や、近隣の壬生高校福祉コースの生徒による点字指導の支援等、幅広い年代との連携と交流を重ねてきました。

まずその中の一つとして、

各学年とも生活料や総合的な学習の時間で野菜作りをしています。中でも五年生は、壬生町の特産物であるかんぴようの栽培をしています。マルチを使用して本格的に畑にかんぴよう苗を植えたり、かんぴようむき体験をしたりする中で、農家の方々の知恵や苦労、そして努力を学びます。講師の方に畏敬の念を抱きつつ、お礼の言葉を述べ、全員で深々と頭を下げた児童の姿に、講師の方々も感動していました。

次に、壬生高校福祉コースの二年生が講師となり、三・四年生に点字を教えます。基本的な説明を聞き、点字を打つ練習をします。高校生は、児童が点字を打つ様子をやさしく見つめ、

困っている様子が見られると手をさしのべていました。やさしく自ら進んでかわろうとする気持ちが高校生たちに育ちます。一生懸命に取り組む姿を通して、「自分も誰かのために役立つ人になりたい」という心を、育んでいきたいと思っています。

『ふるさと学習（本場結城紬）の取組』

小山市立福良小学校 栗原 政夫

本校は、古くから養蚕や絹織物の盛んだった絹地区にある、児童数六十六名の小規模校です。

本校は、古くから養蚕や絹織物の盛んだった絹地区にある、児童数六十六名の小規模校です。

に恵まれた環境にあると言えます。

特に福良は、二〇一四年ユネスコ無形文化遺産に登録された「本場結城紬」の一大産地です。現在では、養蚕農家はなくなっていました。家・糸つむぎの指導者・地機（じばた）織りの指導者がおり、本場結城紬協同組合や県の施設である紬織物技術支援センターもあります。まさにここは、結城紬に関わる、人的・物的資源

から、本場結城紬の製作工程の教材化に取り組みました。児童でも体験可能で、地域の人材活用が図れる内容を選択し、実践を通して学習展開を研究しました。それを、総合的な学習の時間と生活科の年計に組み入れて、毎年見直しをしながら取り組んでいます。

今年度は、五月二十二日に、『蚕お迎え式』を行いました。三令の蚕（幼虫）を小山農業協同組合稚蚕共



かんぴよう苗の観察

同飼育場からもらい受け、全校児童で迎えて飼育が始まりました。式には、元養蚕農家の方や共同飼育場の方を外部指導者として招き、「蚕を飼うときの注意事項」や「養蚕体験談」の話を聞きました。

その後、一・二年生が代表で、えさになる桑を与えました。この桑は、三年前に学校敷地に植え、地域の方の指導を受けて大きくしたものです。

今後三年生以上も、蚕の成長に合わせて、結城紬の体験活動に関わっていきます。

これからも、地域の恵まれた教育力を学校経営に生かし、ふるさと福良に愛着と誇りをもてる児童を育てていきたいと考えています。



桑を蚕にあげる様子

Cosmos
コスモス

栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長 福田 美都代

本会は、県内公立小・中学校の女性校長九十四名と教頭（副校長）一七七名、計二七一名の会員で組織されています。女性管理職としての資質向上とともに女性教員の活動の場を広げ、男女共同参画社会の促進に努めることなどを活動の重点として年二回の研修会を実施しています。

八月の第二回研修会では、校長・教頭の代表による実践研究の発表並びに映像ディレクターの竹澤志郎氏をお招きして「プランニングとディレクションの思考法」の広告制作の現場から」の演題で講演会を開催する予定です。

また、七月に鳥取県で開催される全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議会で本県代表が学校経営について提案を行います。

今年度も子どもたちに生きる力を育む活力ある学校経営をめざして参ります。

~~~~~ 栃の葉 ~~~~~

「とちぎの子どもたちの学力向上に向けて」

栃木県教育委員会 学校教育課

県教育委員会では、「とちぎっ子学習状況調査」を要とする「とちぎっ子学力アッププロジェクト」を推進しています。

調査結果から、理由を説明したり資料等を読んでまとめたりすることについて

は、引き続き本県の課題であることが分かりました。今日必要とされる思考力・判断力・表現力等を育むことができているかを把握し、指導の改善を図るためには、調査問題の活用が有効です。まずは教職員が調査問題を自ら解き、出題の趣旨を十分理解する必要があります。

また、授業の中で、自分の考えを文章にまとめる指導に力を入れることなども課題改善のために重要であると考えています。

今後とも、各学校が、調査結果や客観的資料から児童生徒の変容に手ごたえを感じていけるよう支援して参りますので、校長先生方におかれましては、教職員の当事者意識や学力向上の気運を更に高めていただきますようお願いいたします。

平成二十七年年度関プロ校長会理事会だより

副会長 高山 裕一

五月八日（金）神奈川県横浜市「メルパルクYOKOHAMA」で、平成二十七年第一回理事会が開催されました。

◆第十五分科会（市貝町）
・第六十八回関プロ東京大会 平成二十八年六月九日なかのZEROホール他

○会長挨拶
○協議
・平成二十六年年度会務報告
・平成二十七年役員選出
・平成二十七年事業計画、予算案

○情報交換
・個人の成長がわかる学力テスト実施。
・平成二十九年権限委議による政令市と県の関係。

・第六十七回関プロ新潟大会、運営要領、宣言文等
◆第六分科会（上三川）
・人事考課制度の課題。
・三十五人学級の予算措置。

「全国連合小学校長会
第六十七回総会から」

栃木県小学校長会長

大豆生田 将

五月二十二日、東京虎ノ門ニッショーホールにて、全国の小学校長を代表する理事・代議員約六百名が参加し、第六十七回総会が開催されました。

冒頭、堀竹充会長（東京都新宿区早稲田小学校）は、「様々な教育改革に対し、いかに適切に対応していくかが今後の大きな課題である。全連小の役割として、教育の質の高さを維持していくために研究を進めていきたい。」と抱負を述べられました。

議事では、「学校経営の充実」「研究活動の充実」等、五つの活動方針が提案されたとともに、各部の活動方針も承認されました。

研修会では、文科省の伯井美徳審議官から今年度の諸施策と当面する初等教育の諸問題の全般的な講演と財政課長などから行政説明があり、盛会のうちに閉会しました。

話題の広場

『運動会と新幹線のコラボ！ ～チーム安沢Ⅱの起点～』

矢板市立安沢小学校
宇野 昌男

本校は歴史は古いのですが、平成十八年度に校舎が移転・新築されました。そのおかげで、東北新幹線が「すぐ！目の前を！」通過する恩恵に与っています。鉄道マニアからすれば、毎日が天国ではないでしょうか？平均すると、約六分間に一本通過する計算です。

『超スピードで 新幹線が走る学校！』をキャッチフレーズに、特色ある学校づくりに励んでいます。

本校は、例年五月中旬に運動会を実施します。保護者も地域の人たちも、毎年運動会の「ちびっ子ソーラン」を楽しみにしています。新幹線の通過する轟音で、種目練習が場合によっては途

切れてしまうハプニングもあります。それもまた楽しいものです。（肝心な指導が聞こえないことも！児童にとっては都合のよい場面もありますので！）今年度も、色とりどりの東北新幹線をバックに、ダイナミックな踊りが披露できることを楽しみにしています。運動会を、学校・学級経営の『最大のチャンス』と受け止めて、日々ヴァージョンアップをめざしています。

運営拠出金

委員会だより

運営拠出金

委員長 大沢智恵子

県小学校長会は、各地区小学校長会で組織する連合機関であり、その主体的活動の充実強化を図るために運営拠出金を設定し、運営拠出金の保管と管理を図るために運営拠出金委員会を設けています。

本会費は、新会員の皆様に拠出していますが、

県からの補助金カット、市町からの法令外負担金の減額に伴う本会計への補助もあり、基金造成が年々、困難な状況になってきています。

今年度も、本会計研修等への補助を行い、各地区への補助金は、昨年度に引き続き、会員数に応じた金額を支出します。

各地区の会員の皆様には、運営拠出金の状況等をご理解の上、充実した研修が図られますようお願い申し上げます。

県小学校長会

事務局だより

事務局長 野中 政治

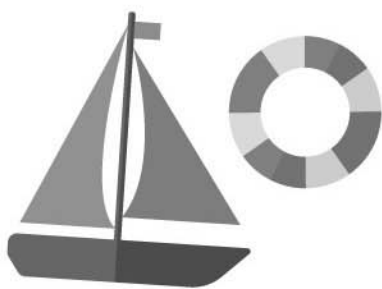
五月十四日の定期総会（代議員制）では、平成二十六年事業報告・決算報告・平成二十七年役員報告・活動目標・事業計画・予算案審議があり、承認されました。新年度の方向性が決定し、小学校長会の活動が順調にス

タートしました。

各地区の現状や課題等についての会員の情報交換と小学校長会のHP等を通して広報活動をより活発化させることが必要です。各地区・各市町での活用をお願いいたします。

今年度は、関プロが新潟大会で、全連小が山口大会です。なお、関プロで、宇都宮・上三川地区と芳賀地区が発表します。

さて、事務局は、今年度から新任の野中事務局長と高柳事務局員です。勤務は九時～十六時（昼休み一時間）です。不在の場合は留守電設定にしておきますので用件をお話ください。



編集後記

五月に鹿児島で小学校の教員をしている教え子から異動の葉書が届きました。今度、鹿児島大附属小から、奄美大島の指導主事になり、そちらへ引っ越したという連絡でした。教え子の活躍を喜んでいたので、間、台風六号が直撃したニュースが飛び込んできて、すぐに安否の電話を入れ、無事を確認し安堵しました。

最近、箱根・大涌谷の噴煙騒動を始めとして噴火や地震が続いており、日本列島の火山活動の活発化が顕在化しています。

今後学校では、「竜巻の避難訓練」も含め防災教育のさらなる充実の必要性を痛感しております。御多用の中、本号へ玉稿をお寄せいただきました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。

宇都宮市立平石中央小学校

関山 英二

